

《全自連、越谷市の自転車施策》

自治体相互の連携を深めて 安全、快適な自転車利用環境をつくる

全国自転車施策推進自治体連絡協議会会長
越谷市長

高橋 努

『自転車・バイク・自動車駐車場 パーキングプレス』誌 発行人

森井 博

【プロフィール】

高橋 努 (たかはし つとむ) 1943年(昭和18年)5月27日、埼玉県越谷市生まれ。1962年4月越谷市役所入庁、昭和1975年3月越谷市役所退職。同年5月越谷市議会議員(以降連続6期)。1998年7月埼玉県議会議員(以降連続4期)、2009年11月越谷市長(現在3期目)。3つの基本理念「安心度埼玉No.1の越谷」「市民が誇れる越谷」「いきいき活性化する越谷」を掲げて、越谷のまちづくりに取り組んでいる

予想だになかったコロナ禍という災厄に見舞われた2020年。我々パーキング業界も、在宅テレワーカー増加、外出自粛などで自動車駐車場、自転車駐車場の利用者が減少し、大きな痛手を被った。

ただ、その一方で「自転車」という移動手段が再評価されたのはプラスにとらえて良い事象だろう。ご存じのとおり、通勤電車内の密を避けられる移動手段として、話題となった。(同様のことは自動車にも見られたが)

現在、自転車に関しては私が関わっている一般社団法人自転車駐車場工業会、一般社団法人日本シェアサイクル協会などがあるが、長く我が国の自転車活用環境改善に多大な貢献をしてきた点では、こちらの団体にははるかに及ばない。それが、全国自転車施策推進自治体連絡協議会(以下、全自連)である。

全自連は、会員自治体をはじめとする各市区町村と国などが連携し、自転車などの安全利用の促進や、駅周辺等の放置自転車問題に取り組んできた。詳しい数値はこの後触れるが、現在、全国の放置自転車数は約4.4万台にまで減少している。

今回のゲストは、全自連の会長である埼玉県越谷市長の高橋 努氏。閣議決定から2年半が経過した「自転車活用推進計画」に基づく施策などの推進に向けて、今後、全自連はどんなアクションを起こしていくのか。また、越谷市としてはどんな取り組みを行っていくのか。越谷市を代表する観光スポットでもある越谷レイクタウンの「大相模調節池」を望む施設でお話を伺った。

(対談収録:2020年10月21日)

「21世紀の交通の主役に自転車」を目標に努力を重ねていく

森井 本日、私は初めてこの場所に訪れました。圧倒的な開放感と豊かな水、緑、湖畔にはサイクリングコースも整備され

ていて本当に素晴らしい環境ですね。天候にも恵まれて絶好の日和となりました。

高橋 ありがとうございます。ここは越谷市の観光事業の発展と開発の拠点となっています。レンタサイクルも借りられるんですよ。

森井 なるほど。さっきサイクリングを楽しんでいる人を何人か見ました。ここならさぞ気分良く、快適な時間を過ごせそうです。では本題に参りましょう。まずは、就任からやや時間が空いてしまい恐縮なのですが、改めて全自連会長就任にあたっての抱負をお聞かせください。

高橋 やはり、最初に新型コロナウイルスについて申し上げなければなりません。終息の兆しは依然として見えておらず、感染防止対策と社会経済活動の活性化、この両立が、本市も含めて、どの自治体でも、喫緊の重要な課題であると認識しています。自転車が、感染症を防ぐ3密回避策のひとつとして改めて注目されており、その点でも、全自連の任務の重要性も増していると感じています。

森井 そうですね。このような困難な時局における全自連会長としてのリーダーシップに、大いに期待しています。

高橋 ありがとうございます。自転車は、気軽に利用できる交通手段である、環境にも優しく、健康増進や観光振興など、その役割も多岐にわたり拡大しています。ただ、その一方で、走行環境の改善や深

刻な自転車事故の発生による高額賠償事例も発生するなど様々な課題もあります。コロナ禍という難局ではありますが、今後も、会員自治体の意向に沿った自転車施策の実現に向けて、国や県をはじめ自転車に関わるすべての方々と連携・協働し「自転車が21世紀の交通の主役」となることを目指して努力して参るつもりです。

ターニングポイントは平成6年施行の「改正自転車法」

森井 全自連の発足から、四半世紀が経過しました。高橋会長の目には、ここまでの成果、現時点の自転車問題解消の手応えなどはどのように映っていますか。

高橋 全自連は、平成4年2月、社会問題化した放置自転車等の抜本的な解決を図るために、全国172の自治体が集まり、発足したのが始まりです。全自連にとって、大きなターニングポイントとなったのは、平成6年に施行された改正自転車法(「自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律」)でした。本協議会の設立によって、放置自転車に対する国民の関心が一層高まり、鉄道事業者の責務や放置自転車の撤去・処分の法制化など、その改正に大きく影響を及ぼしたと思っております。

森井 そうでしたね。改正自転車法に



『しがや観光ガイドブック2019』。5本の一級河川や越谷レイクタウンなどの水辺空間と日光街道の宿場町の文化が交差する越谷市の魅力を多様なテーマで紹介している



よって、全国の自治体で「自転車等放置禁止区域」が明示され、この区域内で自転車やバイクが放置されていれば、撤去できるようになりました。

高橋 はい。その後、会員自治体をはじめとする全国の市区町村の懸命な取り組みの結果、発足時には、全国で約80万台あった駅周辺などの放置自転車が、約4万4,000台に減少するなど一定の成果をあげて参りました(【注】ピークは、全自連発足前の昭和56年の約99万台)。

森井 振り返ってみると関係者各位が



2019年5月に東京都墨田区で行われた全自連第28回総会ならびに自転車問題解決促進大会の様様。2020年はコロナ禍によって書面により第29回総会を開催。推進大会及び講演会は中止した



全自連会員自治体の長年の努力によって全国の放置自転車台数は劇的に減少した

大変な努力を継続されてきたことを改めて実感致します。その一方、さらに何か課題を挙げるとしたらどんなことが考えられますか。

高橋 やはり自転車に関連した事故の増加ですね。さらに自転車利用に関するルールの周知徹底、マナーの向上、自転車走行環境の整備なども挙げられます。今後も、自治体としての責務を再認識しながら、自転車に関する諸課題の解決と、さらなる利活用を図るため、会員相互の連携を深めながら自転車施策を推進して参りたいと考えております。

自転車駐車場の多機能化で 運営管理者に安定した利益を

森井 続いて、自転車駐車場についてお聞きします。従来の役割は「自転車を駐輪する場所」でしたが、現在は「人の流れの基点」「公共の施設・都市施設としての機能」「観光、買い物等の情報発信」など新たな付加価値のトレンドが生まれつつあります。事実、弊社でも宅配ロッカーやコインロッカーの導入、デジタルサイネージによる防災情報の発信などを手掛けております。こうした事象に対してはどんな見解をお持ちでしょうか。

高橋 越谷市のケースで説明させていただきます。越谷市では、公益財団法人自転車駐車場整備センターと協定を締結し、連携を図り



越谷特別市民「ガーヤちゃん」。越谷市商工会青年部が「地元の特産品を作り、まちおこしをしたい」との思いから、市内にある宮内庁埼玉鴨場の「鴨」と越谷特産の「ねぎ」にちなんで考案された「こしがや鴨ネギ鍋」。ガーヤちゃんはそのキャラクターとして2005年に誕生

ながら自転車駐車を整備して放置自転車対策を講じて参りました。取り組みの結果、本市の放置自転車等の撤去台数は、7,216台あった2009年度に比べると、昨年度は1,851台と約4分の1以上にまで減少しています。これは大変結構なことなのですが、一方で課題もあります。現在市内には自転車駐車場は総計116カ所あり、約4万台分が確保されています。利用率は約57%であり、つまり43%は空いている状態となっているのです。運営者にとっては早急に是正すべき問題ですので、空きスペースを駐輪以外の用途に使用することは一考に値すると考えています。人口減少社会に突入していることもあり、自転車駐車場にシェアサイクルポートを設ける、あるいは災害時の帰宅困難者の一時避難場所にするなど、本来の機能にプラスした、公共施設のあり方について、社会情勢等に対応しながら、施設の有効活用、複合化なども含め研究し、進めていきたいと考えております。

埼玉県東南部 サイクリングロードの ネットワーク構築を提案

森井 近年の自転車をめぐる大きな出来事といえば、やはり2018年夏の「自転車活用推進計画」の閣議決定が挙げられます。全国で走行環境、駐輪環境の整備や、サイクルツーリズムの活性化、自転車通勤の推奨など、様々な事象が見られていますが、どのような感想、期待感を



対談を行った越谷市観光協会。レンタサイクルも借りられる

持たれていますか。

高橋 自転車先進国への仲間入りを果たす第一歩であり、もちろん大きな期待を寄せています。自転車活用推進本部をはじめ、全自連の会員自治体などと、より一層の連携を図りながら自転車の安全で有効な活用を進めて参りたいと考えております。

森井 そうですね。自転車活用推進計画の推進において全自連が果たす役割は非常に大きいと思います。

高橋 自転車は、地球環境に優しく、観光振興による経済効果、健康の増進、人々の行動範囲を広げ、地域とのふれあいやつながりを取り持つコミュニケーションツールでもあると感じております。特に越谷市は、水辺など多彩で魅力的な景観があり、なおかつ地形が平坦なことから自転車での移動に最適です。さらに埼玉県東南部に目を広げると、越谷市から江戸川サイクリングロードへのアクセスも良く、広域でサイクリングを楽しむ環境が整っています。集客・交流による観光ツーリズムの視点や、日常での豊かなライフスタイルの実現の視点から、まちづくりに自転車を活用していきたいと考えています。

森井 埼玉県の東南部でサイクリングロードのネットワークをつくるというのはいかがですか。越谷市を含む埼玉県は平坦な場所が多く、自転車の移動に最適ですよ。

高橋 実は以前から、越谷市を含めて近隣の草加市・八潮市・三郷市・吉川市・松伏町の5市1町で「埼玉県東南部都市連絡調整会議」という仕組みがつくられていまして、広域的

な行政課題についても5市1町で連携を図っています。その結果、公共施設の相互利用、図書館の広域利用、重症心身障害児施設中川の郷療育センターの共同設置、埼玉県東南部地域公共施設予約案内システム(通称:まんまるよやく)の稼働など、様々な事業が展開されています。

森井 では自転車を活用した「観光」にも協働で臨めそうですね。

高橋 以前、観光にも取り組んだことはあるのですが、まだ有機的な展開には至っていません。今後、自転車サイクリングロードの相互利用も、観光振興を可能にする検討課題としていければと思います。

国内外の試みにヒントあり 既存道路の自転車走行レーン確保

森井 自転車振興が進むのは業界としてももちろん歓迎なのですが、半面、安全の担保、マナー、モラルの啓発なども真剣に取り組むべき課題です。高橋会長はどう受け止めていらっしゃるでしょうか。

高橋 安全に利用していただくためには、交通安全啓発のほかに、良好な自転



車交通網などの整備も必要となります。本市では、レイクタウンなど区画整理地内を中心に自転車走行レーンの確保に努めておりますが、安全な通行環境を整えるには用地の確保など多くの課題があります。特に既存道路における走行レーンの導入は難しいと考えています。

森井 既存の対応例では金沢市の取り組みにヒントがあると思います。裏通りを走る幅員およそ6mの生活道路の左右に各2m幅を確保して、道路上に自転車のピクトを表示した「自転車走行指導帯」を導入しています。自動車の走る場



①越谷花火大会。葛西用水中土手周辺を会場として毎年7月下旬に開催。約5,000発が打ち上げられる
②北越谷の元荒川沿いには約2kmにわたる桜並木が。桜まつり期間中は夜桜も楽しめる
③こしがや田んぼアート。7月下旬～8月中旬が見頃で隣接する高さ80mの展望台から楽しめる





①9月にはこしがや薪能を開催。越谷には埼玉県内唯一の屋外能舞台があり、能舞台の周囲にかがり火を焚いて能を舞う
 ②11月下旬(あるいは12月初旬)に行われるこしがや産業フェスタの様様。5,000人分を一度に作る「こしがや鴨ネギ鍋」の大鍋が人気。越谷名産のネギ「越谷ねぎ」と鴨肉の絶妙な味わいに多くの市民が舌鼓を打つ

所がかなり狭くなるのですが、臨機応変に自転車の走行帯も使い、自転車とお互いに道路をシェアしながら使っています。

高橋 それは興味深いですね。

森井 また、オランダ、ドイツなどヨーロッパの各国でも既存道路で自転車と自動車のスペースシェアを上手に行っている事例が多く見られます。かつて自転車駐車場工業会の主催で会員各社が現地を視察したこともありましたが、現在は無理ですが、いずれ越谷市さんもヨーロッパ視察に行かれてはいかがでしょうか。きっと収穫は大きいと思います。あるいは我々の団体の視察もいずれは再開できると考えていますのでそれに同行されるのももちろん歓迎します。

高橋 ありがとうございます。

中学生対象に スケアード・ストレイトで 自転車事故の怖さを指導

森井 自転車利用者を対象にしたマナー、モラル啓発についてはどのような取り組みをされていますか。

高橋 本市では、交通安全対策基本法に基づく越谷市交通安全計画を策定しており、本計画において「自転車の安全利用の推進」を重点項目と位置づけています。

具体的には、小中学校の交通安全教室をはじめ、各季の交通安全運動の啓発活動など、自転車の安全利用に関する対策を講じているところです。

森井 教室ではどんなことをされているのですか。

高橋 小学校では、越谷警察署等と連携を図りながら交通指導員による交通安全教室を開催しています。小さい頃から自転車の交通ルールの習得やマナーを身につけてもらおうと、市内の30校すべての学校で実施しています。また、中学校では、スタントマンが実際に交通事故を再現する、スケアード・ストレイト教育技



「こしがやサイクルカフェ」は自転車とコーヒーの相性の良さを活かし、こだわりのあるライフスタイル・楽しみ方を提案している。市内全14店が加盟

法による交通安全教室を、毎年、開催しております。

森井 スケアード・ストレイトは本当に説得力がありますよね。

高橋 はい。確実に効果をあげていると実感しております。自転車にまつわる事故といえば、見過ごせないのがスマホです。ここ数年、全国各地で「歩きスマホ(スマートフォン)」が問題視され、公共の場所でもさまざまな呼びかけを行って、歩きスマホをストップさせようとしていますが、なかには、自転車に乗りながらスマホを操作する人もいて、本当に危険であると認識しています。この「自転車スマホ」も歩きスマホ同様に止めさせなければなりません。

森井 おっしゃるとおりだと思います。

高橋 そのほか、民間と連携して行っている交通安全講座では、自動車運転シミュレーターを使い、高齢者にも分かりやすい教室を開催し、高齢者の事故防止に努めています。令和元年度では、交通安全指導や交通安全の出張講座等を開催し、合計で約100回、約2万3,000人の方々に参加をいただきました。

森井 弊社でも安全運転に役立つルール・マナーの学習や、危険予測をサポートする目的でさまざまな取り組みを続けております。Honda製の自転車シミュレーターもありまして、バーチャルな街



を走行し、街中での自転車の運転を模倣的に体験することができます。インストラクターによる解説を聞きながら、危険場面を安全に体験して、ルールに沿った自転車の乗り方を学べると好評なんです。各自治体にお貸出しもしていますので、よろしければ越谷市さんでも。

高橋 それは良さそうですね。ありがとうございます。さらに、本市では、市内にある自転車総合メーカーのホダカ株式会社と連携して、スポーツサイクル講習会を実施しています。加えて「こしがやサイクルカフェ」では、サイクリストを地域でおもてなしするとともに、日常の中でカフェと自転車とを共に楽しむライフスタイルを提案させていただいており、好評です。今後も、誰もが交通事故の被害者・加害者にならないように、引き続き、自転車の安全利用に努めるとともに、地域の活性化などを図るため、自転車に関連した取り組みを進めて参ります。

森井 では最後に、withコロナ時代に再評価される自転車の価値について、役割、期待感などをお聞かせください。



60年近くにわたり、越谷市、埼玉県の行政に尽力してきた高橋氏。自宅と市内の県民健康福祉村をウォーキングで往復し、健康維持に努めているという

高橋 新型コロナウイルス感染症の影響によって、大規模な誘客・集客などに一定の制限があり、越谷市では2020年の「南越谷阿波踊り」や「市民まつり」など多くの事業が延期、または中止になりました。現状の「新しい生活様式」を踏まえた市民のライフスタイルの中で、自転車の役割は重要度を増し、その価値は、さらに高くなっていると感じています。自転車は、買い物や通勤・通学での移動手段のほか、健康づくりや観光、余暇の充実、環境の改善、さらには、震災

時の移動手段としても活躍が期待されます。このように自転車は役割も多く地域経済の循環にも効果があるなど、影響をおよぼす裾野が広く、地域の活性化に有効です。今後も、自転車をまちの魅力向上や生活を豊かにすることにつながる提案を続けて参ります。

森井 承知しました。全自連会長として、そして越谷市長として、自転車の普及・推進と諸課題の解決に腕を振るっていただくことをお祈りしております。本日は誠にありがとうございました。 **PP**

【パーキングプレス 発行人】 **森井 博** のプロフィール

- 一般社団法人 日本パーキングビジネス協会 理事長
- 一般社団法人 自転車駐車場工業会 会長
- 一般社団法人 日本シェアサイクル協会 専務理事
- 東京京橋八重洲ライオンズクラブ 会員
- 六本木男声合唱団 団員
- サイカパーキング(株)、日本駐車場救急サービス(株)、モーリスコーポレーション(株) 夫々会長

【略歴】 1938年(昭和13年)宮崎県延岡市生れ82歳。
1957年(昭和32年)石川県立金沢泉丘高校卒
1961年(昭和36年)東京商船大学(現東京海洋大学)卒
1961~1979年 石川島播磨重工業(現:IHI)
1979~1991年 東芝
1991年~ 現職

【趣味】 現在:ゴルフ・車・自転車・合唱
過去:水泳・野球・陸上競技・テニス

【遍歴】 ゴルフ:毎週1回ホームコースでラウンド、週1~2回練習場通い。エージシュートを毎年1回が目標。
車:毎日通勤で運転。中古車3台を大切に乗り廻す。
自転車:数台保有するも年齢を考え余り乗らない。
歌:六本木男声合唱団で毎週1回練習に励む。年1~2回サントリーホール等で公演。2018年6月にはNY・カーネギーホールでも公演。
仕事:健康のため平日は毎日9:00~17:00出勤。(コロナ禍の期間は在宅テレワーク+週3日出勤)
水泳:小学校に入る前から泳ぎは得意。
野球:中学生までは本気でプロになるつもりであった。
陸上競技:高校時代 短距離、やり投げ、インターハイ2回出場。
テニス:元デ杯選手のコーチでかなりの腕前(?)になるも、45歳時アキレス腱断裂でウインブルドンを断念。

過去の対談ゲストの方は、WEBでご紹介しています

パーキングプレス 対談 で検索

または <http://www.parkingpress.jp/taidan/> にアクセス

対談記事のバックナンバーもご覧いただけます。

